
Option DIscord

蒼影

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Option D I S c o r d

【Nコード】

N 8 8 1 4 C

【作者名】

蒼影

【あらすじ】

【ヴース・V O S・】vs【イビル・E V I L・】始まりはこの

【争い・D I S c o r d・】

C O R D - 0 : 始

月の無い夜の闇は無数の灯火で明るく照らされている。

しかし今のそれは、心に安息を与える炎では無く、恐怖と絶望を与える災いの炎と化していた。

その炎が照らすのは、無数の瓦礫と斬り刻まれ肉片となった、人の屍。

瓦礫の山と炎の林を縫うように逃げ惑う人々を追いかける、醜悪な姿をした化物。

それは人々を袋小路に追い詰め、斬り殺し、また別の獲物を狙う狂気に満ちた狩人。

かろうじて残った建物の隅に隠れた、赤い髪を持つ黒眼の幼い男の子の目の前で、一つ、また一つの命が消えていく……

「うあああ！」

叫びながら飛び起きた彼は、暗い部屋の中を見渡し、ここが自宅である事を必死に確認する。

荒い息を整えながら、吹き出した汗で体に張り付いた服をはがしベツトから降りると、ふらふらと揺れるようにシンクへ向かう。そして、一杯の水を一口、一口、喉を通る水の冷たさを確認するようにつくりと飲み干した。

「オレは……もう、弱くない。あの時とは違う……」

夜の黒が赤く染まり、白い光を迎えていく……

東の空に太陽が高く登った頃
彼はソファに座り、本を読んでいた。
前にあるガラス張りのテーブルの上には、コップが一つ、中身は既に空。

左手の窓際には本棚が一つ

本の頁を捲る音がいくつかした頃……

突然、ドアが開け放たれ

何者かが侵入してきた

座っている場所からは玄関は見えないが、誰が来たかはおおよそ見

当がついていた。

「入るんなら、せめてノックくらいはしろよ、リース」

その気配は徐々に近付いていき、向かい側にあるソファに座った

「急用」

「急用って言っても、勝手に入ってくるのはどうかと思うぞ」

「一年間同じ小隊でしょ？ それくらいおおめに見てよ。……それより、イリス。今日何の日分かる？」

自分の名前を呼ばれ、本を読む手を休め、顔を上げる。

空色のセミロング、右側の前髪が長く、右目が隠れている。全体的に外側に広がっているのはクセ毛だから……らしい。彼女は、その長い髪の下から白い視線を投げている。

「……確か特に何も無かったと思うぞ」

リースは着ている服を指差して、『分からない？』というような視線を投げてきた

(……ん？……スーツ？……)

「入隊式なら明日だろ？」

「違う、今日！だから呼びに来たの！」

リースは驚いたような表情でイリスの発言を訂正する

「いや、明日の筈だ、今日は3日だろ？」

「いいえ、4日」

そんな訳が無い、と朝刊の日付を見てみた
直後に体の動きがピタリと止まる

黒い活字でしつかりと『4日』と印字されていたのだから

「…解った、準備するから先に行つててくれ」

「早くしないと時間無いからね」

リースはそう言つと、部屋から出ていった。

(…あれ？オレの一日は何処いったんだ？)

リースが出ていってから暫くして、そう思い悩んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8814c/>

Option DIScord

2011年1月16日08時36分発行